



国民の森林・国有林

中部森林管理局

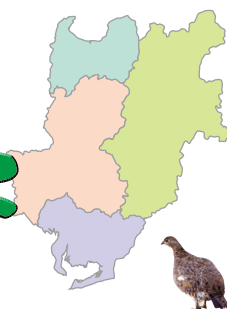
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



インターンシップによる大沢野防風保安林の森林整備実習(富山署)

## 森林を育てる大切さを実感する

～インターンシップ～

|      |                          |      |
|------|--------------------------|------|
| 主な項目 | ○ 御嶽山噴火 .....            | P 2  |
|      | ○ 各地からのたより .....         | P 6  |
|      | ○ 寄稿 森林鉄道「小川線」の思い出 ..... | P 8  |
|      | ○ シリーズ「森林官からの便り」 .....   | P 8  |
|      | ○ シリーズ「ご当地自慢」 .....      | P 10 |

## 御嶽山噴火

【総務課】九月二十七日、十一時五十二分、顕著な前触れもなく御嶽山が突然噴火し、五〇人を超える方々が犠牲となりました。このような大災害となったのは、紅葉シーズンであったこと、土曜日で朝から晴天に恵まれたこと、昼時で山頂付近に多くの登山者が集まっていたことなど、多くの要因が重なったためと言われています。

今回の噴火で被災された方々に対しお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りいたします。

御嶽山の噴火を受け、中部森林管理局並びに木曽森林管理署、飛騨森林管理署及び岐阜森林管理署では、速やかに「災害対策本部」を設置し、ヘリコプターによる現地調査、地方公共団体災害対策本



噴火が続く御嶽山

部への職員派遣等により情報収集と対応策の検討を行ってきました。また、国の非常災害現地対策本部が長野県庁内に設置され、中部局も国の機関として参加しました。

噴火直後の現地調査では、山頂部分で相当量の降灰が確認され、噴火口直下の濁沢川で火山灰による濁りが認められました。本調査に同行した有識者の「濁沢川では、豪雨時に土石流が発生する危険性が比較的高い。」旨の判断を踏まえ、同河川上流において、土石流センサー、監視カメラ、雨量計等を設置するとともに、治山ダムの除石作業を実施していま



治山ダム上流部で進められる除石作業

十月五日夕には、台風十八号に伴う降雨により、同河川で土石流が発生しましたが、センサーが反応し、地元の王滝村



(独)森林総研、信州大学等との合同調査  
(土石流発生箇所)

をはじめ関係機関に速やかに情報提供が行われ、各災害対策本部の防災活動に資することができたものと考えています。

また、土石流発生後の現地調査では、有識者により、百基余の既存治山ダムが土石流の勢いの減衰に役立ったことや、除石作業の有効性が確認されています。

今般の噴火に伴う対応に当たっては、関係機関との連携が図られ、長野県、信州大学、(独)森林総合研究所、国土交通省等と連携した合同現地調査の実施、国土交通省と連携した濁沢川の上流と下流の二重の監視体制の構築等の取組を進めてきました。

引き続き、地域住民の皆様の安全・安心に資するため、関係機関と連携し、局署一体となつて必要な対策を進めていくこととしています。

## 長野県西部地震

### 復興三〇周年シンポジウム

【治山課】死者・行方不明者二九名を出す未曾有の大災害となった長野県西部地震から今年で三〇年が経過することを踏まえ、復旧施策の現状を検証するとともに、災害で得た教訓を将来にわたって継承・発信していくため、九月十八日、長野県木曽郡木曽町の木曽文化公園文化ホールにおいて「長野県西部地震復興三〇周年シンポジウム」を開催しました。



基調講演の様子

冒頭、北澤信州大学名誉教授より、「長野県西部地震災害から三〇年」と題し基調講演をいただきました。土石流被災地における治山復旧対策の効果についての説明に続き、震災跡地の植生遷移について、先駆樹種の特性や今後の植生遷



パネリストの皆さん(右：奥田局長)

移の方向性についての解説をいただきました。また、三〇年間の治山事業等の成果によって、地域の防災機能が格段に強化されたことが報告されました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、まず初めに瀬戸王滝村長、前島長野県森林づくり推進課長、安井中日森友隊長、奥田中部森林管理局長の各パネリストから、震災後の対応や災害復旧対策の取組内容等について話題提供をいただきました。

その後、北原信州大学教授をコーディネーターとして、北澤名誉教授を加えた意見交換が行われ、復旧工事による森林の復元によって、牧尾ダムへの土砂流入量が減少している状況が紹介され、森林の持つ土砂流出防止機能や水源涵養機能などについて議論しました。

また、中京圏を中心とした住民ボランティア等によって進められた被災地への

植樹・育林は、被災後から毎年実施されており、著しい成果を挙げていることが紹介されました。今後は、ハンノキ主体の林層を、長期的に安定したヒノキ等の在来樹種中心の森林に誘導するための森林整備が重要であるとともに、引き続き上下流を繋ぐボランティア活動を継続していかなければならないとの意見もいただきました。

最後に、北原教授からは、高標高地での土石流被害地において、植生が遷移する過程を長期的に観察できる箇所として、その学術的価値の高さについて説かれ、研究フィールドとしての活用を全国に広げていってほしいと提言されました。

また、災害の記録や教訓を忘れず繰り返して伝承することが大切であり、地域の皆さんが常日頃から防災・減災の意識を持って行動していただきたいと訴えられ、閉会となりました。

当日は、予想を上回る五二〇名の参加者があり、NHKテレビ等でシンポジウムや翌日実施したポストイベントの現地見学会の状況が取り上げられるなど、治山業務の役割への理解が深まったイベントとなりました。



「企画調整課」「信州山の日」は、山に感謝し、山を守り・育てていく記念日に



記念式典の様子

しようと今年度長野県が七月の第四日曜日と制定したものです。七月二十七日に長野県安曇野市の国営アルプスあづみの公園で「信州山の日」制定記念イベントが開かれました。

記念式典には、高信総務企画部長が出席し、和田副知事のあいさつの後、地元小学生による「信州山の日」宣言が発表されました。また、「信濃の国」ほかの合唱、「信州山の達人」の発表、信州山ガールの始動」と題して、「オトメ☆コーポレーション」による山のファッションショーとミニコンサートがありました。

会場内には山に関する展示、体験ブースやジビエ料理などの販売もあり、午後には長野県森林大使のC・W・ニコルさんら三名による「信州の山」の魅力を語るリレートークが行われました。

中部森林管理局においても中信森林管理署と共同で、シカ対策用のネットを



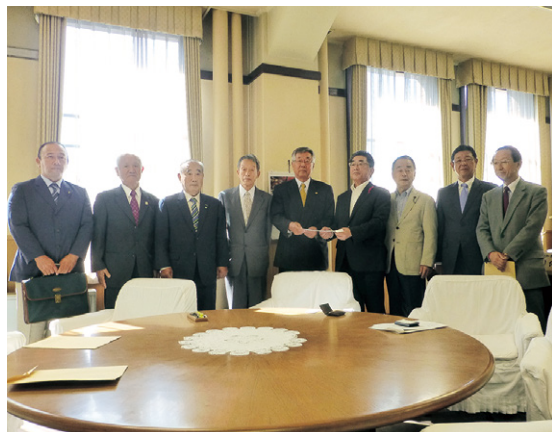
パネルの説明を聞く参加者

囲ったテントにおいて、パネルやシカのデコイ等の展示を行い、管内の日本百名山、保護林・緑の回廊、グリーンサポータースタッフによる保護活動、高山植物の植生復元、ニホンジカ被害対策、治山対策やレクリエーションの森などの取組についてPRを行いました。このパネルをヒントに「山を守り、活かす国有林クイズ」を行い、回答いただいた参加者には中信森林管理署で作成した高山植物等保護啓発のトレーディングカードや木のクリップなどが景品として配られました。コーナーには二〇〇名余りの方に来場いただき、山を守り活かす国有林の取組について知っていただくことができました。

### 公共建築物等へ木材利用を！

河村名古屋市長らへ木材利用促進要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月七日に、愛知県木材利用推進協議会（鈴木和雄会長）による木材利用促進に



要望書を愛知県副知事へ手交

関する要望活動が、愛知県庁、名古屋市区役所、中部地方整備局、東海農政局等に対して行われ、この活動に名古屋事務所がオブザーバーとして参加しました。

愛知県庁では副知事や愛知県議会議長等に要望書を手渡し、公共建築物等への木材利用促進、「あいち認証材」利用促進、木材消費地での木材利用促進へのPR活動への補助等を要望し、理解と支援をお願いしました。

また、名古屋市役所では名古屋市議会議長との面談において、昨年の要請行動で要望した「公共建築物等の木造促進に関する市町村の基本方針」が翌八日付けで方針決定されるとの報告がされ、要望活動の成果がみられました。河村市長との面談では、市長から「木造建築を見積もりしたら一割程度高く、見送った経緯がある。そこから（供給側から）提案などしていただくと有り難い。」と要請されるなど、あらゆる形で木材を使うよ



要望書を名古屋市長へ手交

う連携して取り組むことが確認（約束）されました。

さらに、十月八日には、岐阜県木材利用推進協議会（後藤直剛会長）が岐阜県に対して木材利用促進に関する要望活動を行いました。

岐阜県では古田知事をはじめ、県議会議長、県警本部など各当局に対して、「木材の利用促進に関する要望書」を手渡し、公共建築物等の木造化と内装の木質化の促進、公共工事における木材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進、未利用材・製材端材など木質バイオマスのエネルギー利用促進、JAS製材品・合法木材・ぎふ性能表示材の利用促進、第三十九回全国育樹祭における木材利用促進を訴え、理解と支援をお願いしました。

古田県知事からは、「育樹祭は県産材普及宣伝の場でもあるので会場は木造とし、周辺施設についても木づかいを進め



要望書を岐阜県知事へ手交

たい。」また、「改築するJR高山駅は、金沢～東京間の新幹線開通に伴い、富山経由の入り込み者も増え大変重要な位置づけともなる。ミシュランに選定された観光都市にふさわしい飛騨の玄関にして参りたい。」との発言があり、教育委員会からは、「木のぬくもりは教育上も、重要な要素であり設計段階から木質化としている。」。県警本部からは、「県内の駐在所。交番の改築にあたっては基本的に木造化若しくは木質化としている。」など、積極的に木材利用、とりわけ県産材の利用に取り組んでおられる様子が伺えました。

また地域再生を課題として取り組んでいる商工労働部からは、「地方創世の議論が活発化している中、林業の再生は重要な位置づけになっており、そのためにも木材利用の普及・促進は重要。建築物だけではなく交通機関や小物類に至るあらゆるものについて木材を利用したアイ

デア創出が必要である。関係機関と一層連携した取組が必要。」との意見もありました。

## 中部局インターンシップ

「研修所」学生が中部森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成二十六年中部森林管理局におけるインターンシップを七月二十八日から九月十二日の間、富山署、中信署、南信署、木曽署、飛騨署の五署で、学生十一名を受け入れ実施しました。

【中信署】七月二十八日から八月一日までの五日間、岐阜県立森林文化アカデミーの学生二名を受け入れ、現場業務の就業体験を行いました。

カリキュラムでは、①複層林の低コスト路網による上層木高齢級間伐を実施した箇所の下層木の損傷調査、②中信木材センターの見学、③治山事業における監督業務、④美ヶ原高原での高山植物保護パトロール等を体験していただきました。

学生たちからは、「森林管理署で行っている事業を通して今まで知らなかったことを体験できたこと、特にニホンジカ

最後に、学生たちからお礼の言葉とともに、「国有林で働くことを目指して勉強したい。」との話があり、職員から受験に向けてがんばるよう激励して全日程を終了しました。



高山植物保護活動の打合せの様子

等の獣害被害の現状や被害対策の取組を知り、ニホンジカ被害が大きな問題であることを認識した。」との声が聞かれました。



損傷調査の説明を聞く学生

「木曽署」 八月四日～八日までの五日間、木曽署においてインターンシップの受入を行いました。

例年、学生の夏期休暇期間を利用して行っているもので、今年度は東京農業大学及び長野県林業大学の生徒合わせて四名を迎え、森林管理署の業務を経験していただきました。

初日は、管内概要を説明の後、治山事業地において工事概要等の学習を行いました。予定されていた種子の播種作業は、雨天のため中止となりましたが荒廃地での緑化の目的などを十分に理解していただけた様子でした。

二日目は、森林官の協力を得て、収穫調査から復命書の作成準備まで体験していただきました。作業は大変でしたが普段、演習林等での作業経験が少ないとのことでは好評を得られました。

三日目は、製品生産から販売事業までの一連の作業を見学しました。



藪原土場の様子

最終日には、長野県西部地震の復旧ボランティアで参加した高校生と共に、森林整備のお手伝いをしていただき、予定されたカリキュラムを無事終了することができました。

今回のインターンシップでは、就職活動目前の生徒も含まれており、終日を通して熱心に耳を傾ける姿が見られました。

今後もインターンシップの受入を継続する中で、林業及び国有林野事業へ関心を持つ若者が増えるよう取り組みたいと思います。



林道改良工事箇所の見学

自署土場での木材販売は、有利な販売になるよう工夫をしているなど民間企業にも通じる話題もあり関心を示していました。

四日目は、林道業務と森林育成業務について講義を受けました。特に林道改良工事箇所では、専門的な用語が飛び交う中、林道維持修繕の重要性を認識していただきました。



復旧治山工事現場視察

大きな視野と小さな視野を使いこなして、フィールド全体の良き将来を創造していくことが、治山業務を行うにあたって求められる能力だと感じ、それを実行している職員の方たちは本当に尊敬できる人ばかりでした。

業務を行う場所は、気を緩めると命を落としてしまうような所が数多くあり、住民の命を守るために、命を懸けた仕事をしている方々の覚悟と、そこから来る

## 富山署インターンシップに参加して

千葉大学 糸魚川 学

五日間のインターンシップで、様々な治山の現場を見学させていただきました。奥深い山から民家に隣接している林まで、様相は違えどそれぞれが住民の生活に有益な役割を持っていることを学び、住民の生活を第一に考えて適切な業務を行う責任の重さを実感しました。